長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2024 APRIL VOL.423

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



新体制となりました。皆様よろしくお願いします。

院長に就任して

Welcome 令和6年度新入職員

能登半島地震災害医療派遣報告

事務部長着任挨拶

TOPICS
・メディカルラリー

ガーデニングだより Vol.13

院内さるく Vol.15
手術センター運営委員会

今月の一皿

外来診療担当医一覧

長與 專齋（1838年～1902年）

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長に就任して



自己紹介

2024年4月1日に長崎医療センター院長を拝命しました 高山 隼人です。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は長崎南高校から長崎大学医学部に進み、学生時代は硬式テニス部に所属しテニスに明け暮れていました。県より医学修学資金の貸与を受けていましたので、卒業後は当院でローテション研修を行い、長崎県離島医療圏組合の外科医として生月や対馬で勤務しました。1996年4月より国立長崎中央病院救命救急センター医師として赴任し、以後20年にわたり多くの職員のみなさまの協力により救命救急センターの立ち上げや長崎県ドクターヘリの導入に携わらせてもらい感謝しております。2016年4月から長崎大学病院地域医療支援センターに異動して、離島・へき地に勤務する医師のリクルート活動や医学修学生等のキャリア形成支援などの業務に携わっていましたが、今回、7年ぶりに、長崎医療センターに戻ってきました。


救命救急センター赴任時
昼食風景


2006年12月長崎県ドクターヘリの運航開始時


2009年5月

当院の特徴

当院は1942年に大村海軍病院を前身として1945年に国立大村病院として発足した歴史ある病院で、私が9代目の院長になります。特徴は、様々領域で長崎県の高度先駆的医療を行う施設として認定されており、長崎県内の救急医療の最後の砦としての3次救急医療施設の役割を果たしています。また、国立病院機構としても14の政策医療を担う専門医療施設で、専門医療を連携・統合し卒後教育や生涯教育などを行う高度総合医療施設として位置付けられています。長崎県の離島・半島で発生した重篤な疾病患者をドクターヘリや自衛隊ヘリ等で搬送し、適切な医療を行うことで、県民が安心して暮らせるように貢献しています。

長崎医療センターの団結力と機動力

2019年末から始まった新型コロナウイルス感染症では、当院は県央や県南・離島地域の拠点として患者の治療を行い、高度医療や救急医療への影響を最小限に対応することができました。これは、職員のみなさまの団結力と機動力の賜物だと感じるとともに、地域の医療機関との連携や役割分担により成しえたことだと思います。

地域や職員から信頼される病院を目指す

これは、私が掲げた病院の目標です。職員のみなさんが働きやすく診療を受けたい病院であることが一番だと考えています。当院の理念にあるように「高い水準の知識と技術を培う」ために教育環境を整備すること。「さわやかな笑顔と真心で」心の余裕を持って業務を提供できること。職員一人ひとりが向上心を持って、「高度医療を提供し」地域に安心できる医療を提供できること。そのための環境整備を行っていきたいと思います。

人は宝

職員のみなさんは当院になくてはならない宝です。当院は教育病院として、研修医や看護師、診療看護師（JNP）の養成を行っていますが、臨床研究センターには長崎大学の連携大学院も併設しており、様々な臨床研究ができます。全職員が、研究に取り組み、自身の知識・技術の向上を図り、患者に還元できる環境があります。みなさんの学びにより、魅力ある病院を作り上げていきましょう。

病院OBの皆様には、これまでも当院を暖かく支援していただきました。引き続き、当院の活動にご助言いただければ幸いです。

院長として、職員のみなさんと共に「医療者や事務職が集う病院」「職員が達成感のある医療を提供できる病院」「患者に安全、安心の医療提供できる病院」を目標として、「地域や職員から信頼される病院」を目指したいと思っています。



Welcome 令和6年度

令和6年4月、

研修医



看護部













新入職員!

120人の新しい仲間です。



















能登半島地震 災害医療派遣報告

高度救命救急センター長　中道 親昭

冒頭挨拶をさせていただくにあたり、2024年1月1日能登半島地震により被災された皆様ならびそのご家族の皆様にお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。また発災直後より今日に至るまで、支援活動に参加された医療関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

これまで毎年のように発生した地震、豪雨、台風等の自然災害またCOVID-19のような新興感染症アウトブレイク等の対応経験を基に、近年の災害医療対応の課題として被災地の病院・社会福祉施設支援、そのためのライフライン等補給の重要性、広域医療搬送作戦からの脱却、圧倒的な支援不足の中での支援方法の確立（ロジスティックチーム重要性再認識）、メンタルサポート等が挙げられていました。

これらの課題に対応するコンセプトに関し、これから教育を進めていこうとした矢先に発生したのが能登半島地震でした。長期にわたるライフライン機能停止、避難所運営等の新たな課題が出現し、結果として東日本大震災を上回る医療班の派遣を要する未曾有の災害となっています。

当院においては、県基幹災害医療センター、国立病院機構災害ブロック拠点病院として機能すべくDMAT3チーム・NHO医療班2班・厚生労働省広域看護師派遣3名の派遣を行いました。今回これらに参加された職員方より貴重な寄稿を頂いています。災害医療派遣体験を繋いでいくことの先に新たな災害対応のヒントがあると信じています。少しでも皆様のご参考になれば幸いに存じます。ご一読の程、よろしくお願い申し上げます。









DMAT班
（1月17日～21日）

救急科医師　権 志成

能登半島地震に係る長崎県DMAT第1隊として活動しました。破損した道路、大渋滞、短い日照、冬の北陸の気候などの活動環境下ゆえ、特に安全性への配慮を要した活動でした。現地派遣先の介護老人福祉施設では、環境の変化に対応できず体調を崩しても医師の診察が受けられない入居者の方々が多くおられました。施設スタッフも被災され人数が足りずお休みもほとんどない中、それらの方々を懸命に守られている様な状況でした。私たちは医師診療・看護支援を行いつつ、入居者の方々の安全で衛生的な施設環境を確保し、物資整理等の環境整備を施設側と相談しながら行いました。当院派遣のDMATチームとして現地支援に微力ながら尽力できましたが、断水等が長引き満足な衛生環境が得られないなど、今なお被災者の方々のご苦労が続くことを思うと胸が痛みます。この度の派遣に当たりご協力いただきました関係者の皆様には多大なるご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

JNP　森塚 倫也

活動内容は施設支援（特別養護老人ホーム）として、発熱や食欲低下、脱水、褥瘡処置といった医療介入、入所者の療養環境整備、支援物資の整理等を行いました。また、スタッフの方々は、自身が被災したにも関わらず入所者のために献身的に従事されており、少しでも負担軽減になるよう様々なニーズに対応しました。

現地は、僻地のためアクセスが悪く、北陸の冬の厳しい気候が復旧の妨げになっているようでした。そのため、インフラ整備が十分ではなく活動できるか不安でしたが、院内に残ったDMATメンバーや事務部をはじめとするスタッフの皆様から後方支援をいただき、安心して活動することができました。本当にありがとうございました。

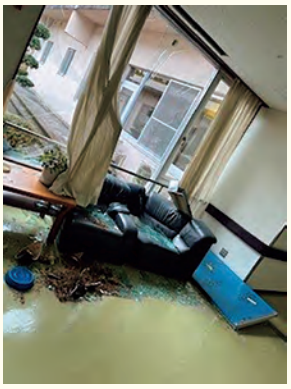
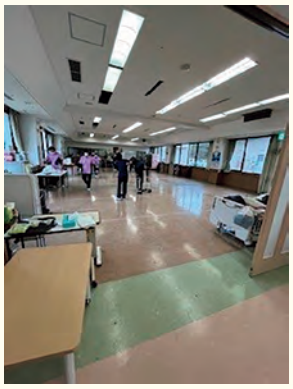
最後に、被災地の1日も早い復旧・復興を祈っています。

薬剤部（ロジスティクス）　相川 実穂

私たちは能登穴水聖頌園という特別養護老人ホームの支援を行いました。

主に権医師と内野看護師は褥瘡患者等の診療に、森塚看護師と私は施設の環境整備を行いました。まず施設のニーズの聞き取りと環境評価を行い、入所者約20名のベッドが密集し感染リスク等の高かった食堂から、施設スタッフの皆様にご協力いただきながら入所者を分散し避難環境を整えることが出来ました。私自身初めての派遣であり、事前情報が少ない状況で不安でしたが、他の隊員や他部隊の方々に支えられながら無事に活動が出来ました。後方支援していただいた皆様のおかげで私たちの活動が成り立ちます。ありがとうございました。



医療班第1班
（1月26日～30日）

総合診療科医師　森 隆浩

被災後1ヶ月弱のタイミングであり、地域の病院や診療所が診療機能を徐々に再開している中での活動でした。電気は回復していたものの上下水道のインフラ整備は見通しが立っていませんでした。熊本地震の時と同様にこのフェーズは、慢性疾患の医療ニーズが多く認められるタイミングです。総合診療医として被災者の皆様がその人らしく過ごせるように健康相談や生活相談を実施しました。

多くの被災者の方が明日への悩みと、不安を話されていながらも、復興させるために何かできることを探されているように感じました。今回の震災で特徴的だった細分化された避難所問題の解決にも参加させていただきました。交通インフラが徐々に改善し始めたこのタイミングで集約する動きがはじまり、避難所集約化のためのアセスメントの活動を行いました。行政と医療とがしっかりと連携してどのように復興への歩みを進めるかについて勉強する貴重な機会をいただきました。また、NHO医療班は2班合同で活動するため、協働した別府医療センターとは強い絆が生まれました。

多くの方々に支えられて、派遣業務を通して新たな価値観・人生観を学ばせていただきました。バックアップいただいた全ての人に感謝申し上げます。



医療班第2班
（1月31日～2月4日）

契約係長　大串 晟忠

NHO医療班の第2班として石川県輪島市内で活動しました。輪島市内の避難所を巡回し、医療ニーズの有無を確認・診察や様々な要因の為避難所に行けず、被災した家屋で生活をしている方への医療支援、輪島市役所内に設置された災害対策本部の運営を行いました。

今回の災害派遣を通して平時にできないことを災害時にできるようになるわけではないことを痛感しました。迅速かつ的確に対応できるよう平時での業務のスキルアップに努めていこうと思います。また、派遣に際しサポートいただいた皆様、共に活動を行った医療班の方々に感謝申し上げます。

最後になりますが、被災地のいち早い復興を願っています。



広域派遣看護師
（1月12日～19日）

3A看護師　上田 幸枝

市立輪島病院へ広域派遣看護師（第1陣）として医療支援にはいりました。震災後2週間を経過するタイミングでした。『やっとスタッフが休みをとれます』師長さんが早々に言われた言葉です。

実際の医療支援ではERと発熱外来を担当しました。震災後、初出勤のスタッフを囲んで、皆で無事を喜び合っていた場面は印象的でした。現場は感染症が多く、時にDKAなど重症症例や、老人保健施設から自衛隊車両で複数搬送されてくる事もありました。対応困難な症例は片道3時間かけて陸路搬送するケースもあり、マンパワー不足を感じました。医療スタッフの多くが不休で働き続けており、カップラーメン片手に寝泊まりしている部屋へ戻っていく姿や、おなか一杯ご飯が食べたいという看護師の要望を目の当たりにすると、継続した医療支援が必要だと肌で感じました。

被災地の一日でも早い復興、健全な生活が送れることを切に願い、このような貴重な経験を今後の現場にも活かしていきたいと思います。





前進

事務部長着任挨拶

事務部長　村上 和明

令和６年４月１日付で嬉野医療センターから配置換で事務部長を拝命しました村上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当院での勤務は初めてですが、以前の職務で度々訪問していましたのである程度は知っているつもりでいたのですが、赴任と同時に病院規模の大きさに戸惑いを感じているのが正直なところです。

さて、今年度の診療報酬改定はプラス改定となっておりますが、収益が増える分支出も増加するものと考えられます。また、新型コロナウイルス感染症が５類に移行され早いもので１年弱が経過していますが、患者数が以前の水準に戻るのは厳しい状況と言われております。

病院目標でもある「達成感のある医療や業務の提供」を行うためにも経営改善を図り、職員の皆様が働きやすい職場となるよう事務部としても努力していきたいと考えておりますので、引き続きご協力・ご指導をお願いいたします。

TOPICS

NMCメディカルラリー開催

3A師長　宮本 瑠美

3/9に看護部のNMCメディカルラリー「楽しく学ぼう急変対応」を開催しました。

近年当院のDrコール件数増加を背景に、病棟看護師の患者の異常を早期発見する能力の向上を目指し、患者の救命率向上を目的に企画しました。

１５チームの参加があり参加者は最初不安な表情でしたが、ラリーが進んでいくうちに緊張が解れ楽しそうな様子でした。「楽しかった」「次回も参加したい」などの声が聞かれ、嬉しく思います。

今回のラリーを通してMETコール活用や患者対応など実践で学べたので現場でも活用し患者の救命率が増えることを期待しております。

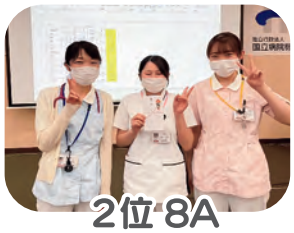
今回企画やボランティア参加、協賛いただいた関係者の方々へ深く感謝申し上げます。



企画運営、ボランティアメンバー



優勝 3B



2位 8A



3位 7A







ガーデニング便り Vol.13



今回紹介するのは、ミヤマカイドウです。姫リンゴに近い品種とのことで小さいリンゴのような実を付けますが、その大きさはさまざまなようです。桜の開花より少し遅れて咲きます。純白の花が枝いっぱいに咲きほこる美しさは桜、以上かもしれません。

副院長　黒木 保

院内さるく

Vol.15 手術センター運営委員会

病院のエンジン・手術センターでは毎年5000件以上の手術が行われています。ニーズがあればいつでも手術できるのが理想かもしれませんが、手術室数もマンパワーも有限なのが現実です。患者さんの安全・安心とともに働く人の心身も保ち、病院を牽引し続けられるように・・・。安全で最良な手術が行なえるよう、各科長、手術室看護師、医療安全・看護部で本音の議論を行う場が手術センター運営委員会です。



今月の一皿

＃2024　ひなまつり

茶巾すしを
女雛と雄雛に見立てた
「ひな祭り」の献立です

栄養管理室
津田 美怜

茶巾すし



外来診療担当医一覧表

受付時間　8時30分～11時30分（ただし急患はその限りではありません。）

（★は新患対応）令和6年5月1日現在

	月	火	水	木	金
総合診療科	当番制	当番制	当番制	当番制	当番制
肝臓内科	★長岡　進矢 ★末廣　智之 ★松本　耕輔 山崎　一美	★佐伯　哲 ★末廣　智之 ★釘山　有希	★小森　敦正 ★山崎　一美 八橋　弘	★長岡　進矢 ★本吉　康英 ★小森　敦正	★本吉　康英 ★釘山　有希
消化管内科	★西山　仁	★後藤　高介 ★峯　彩子	午前　★西山　仁 午後　★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患 専門外来）		★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患　専門外来） ★今村　祥子
内分泌・代謝内科	★安井　順一 ★片岡　こころ 山崎　悠介	★山崎　悠介 安井　順一 片岡　こころ	★安井　順一 山崎　悠介	★山崎　悠介 安井　順一	
腎臓内科	★岡　哲 山下　由恵		★伊達　雅浩 岡　哲	山下　由恵	★山下　由恵 伊達　雅浩
循環器内科　午前	★於久　幸治	★福田　侑甫	★森　彩	★松尾　崇史 ★石松　卓（不整脈）	★深江　貴芸
循環器内科　午後	★鶴川　晃二郎	★石松　卓（不整脈） ★福田　侑甫	於久　幸治	石松　卓（不整脈）	
呼吸器内科	★原　敦子 池田　喬哉	★末原　照大	近藤　晃 ★池田　喬哉	★乗富　大地	★近藤　晃 原　敦子
血液内科	午前　小林　裕児 午後　★榊　智佳（※5/13まで）	★今泉　芳孝	吉田　真一郎	午前　今泉　芳孝 午後　★小林　裕児	午前　吉田　真一郎 午後　★西村　紗央里
脳神経内科（神経内科）	★徳田　昌紘 ★佐藤　和明 足利　裕哉	★岩永　洋 ★足利　裕哉	徳田　昌紘		★岩永　洋 徳田　昌紘
膠原病・リウマチ内科	★岡田　覚丈		★岩永　希	★岩永　希	午後　★岡田　覚丈
小児科　午前	★本田　涼子（神経） ★山田　洸夢（第2・3・4）（心臓・一般） ★西口　奈菜子（神経・一般） 桑原　義典（第1）（心臓）	★本村　秀樹（心臓） ★石橋　洋子（一般・心臓） ★濱口　陽（新生児・乳児） ★石橋　信弘（心臓・一般） 田中　茂樹（神経）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★本田　涼子（神経） ★和泉　啓（内分泌） ★山田　洸夢（心臓・一般）	★西口　亮（第1・3・5）（新生児・乳児） ★石橋　洋子（心臓・一般） ★石川　太郎（一般） 池田　憲呼（神経・一般）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★石橋　信弘（心臓・一般） ★石川　太郎（一般） 本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経）
小児科　午後	★小児外科（第3週） 本村　秀樹（心臓） 発達外来	★本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経）	一ヶ月健診 ★大学医・当番医（内分泌）	発達外来	シナジス外来
皮膚科　①外来紹介・新患	★石川　博士	★里見　直義	★石川　博士	★里見　直義	★中牟田　瑠璃
皮膚科　②旧患	里見　直義	石川　博士	中牟田 瑠璃	石川　博士	里見　直義
皮膚科　③入院中の紹介	中牟田　瑠璃	中牟田 瑠璃	里見　直義	中牟田 瑠璃	石川　博士
外科	★黒木　保（胆・膵） 釘山　統太 （胆・膵・一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） ★福井　彩恵子（一般外科） ★南　恵樹（乳腺•内分泌外科） ★森田　道（乳腺•内分泌外科）	★北里　周（肝・一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） ★南　恵樹（乳腺•内分泌外科） ★森田　道（乳腺•内分泌外科）	★竹下　浩明 （大腸・肛門・一般外科） ★福田　明子（大腸•一般外科） 藤岡　ひかる （肝・胆・膵・消化器）
呼吸器外科			★田川　努 ★松本　理宗		
心臓血管外科			★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志		★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志
脳神経外科	★小野　智憲 ★原口　渉	★案田　岳夫	★定方　英作	午後　原口　渉	★小野　智憲 ★吉田　道春
整形外科・リハビリテーション科	★宮本　俊之 山口　圭太	伊藤　勇人（★第1・3・5）（再 第2・4） 梅木　雅史（★第2・4）（再 第1・3・5）	★下永吉　洋平 熊谷　謙治	★伊藤　勇人 向井　順哉	★森　圭介 向井　順哉（第1・3・5） 山口　圭太（第2・4）
形成外科	★藤岡　正樹 ★西園　馨子	★古賀　一史 ★日吉　尚	★藤原　洸平	★藤岡　正樹 ★日吉尚 / 西園馨子	★藤原　洸平 ★古賀　一史
産婦人科	★古賀　恵 ★福田　雅史	★安日　一郎 ★山下　洋	★菅　幸恵 ★杉見　創 産褥1ヶ月検診（午後）	★五十川　智司 ★山口　純子	★福田　雅史 ★小川　真幸
泌尿器科	★大仁田　亨 錦戸　雅春	松屋　福蔵	★錦戸　雅春	★鹿子木　桂	★大仁田　亨 ★松島　俊樹
移植後フォローアップ外来	錦戸　雅春	松屋　福蔵	錦戸　雅春		大仁田　亨
耳鼻咽喉科	★田中　藤信 ★吉田　晴郎 ★諸富　幸	★松井　彰子	★田中　藤信 ★吉田　晴郎 ★諸富　幸	★吉田　晴郎	★田中　藤信 ★松井　彰子
眼科	★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	午後　中尾　志郎	★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉
放射線科（治療）		★中村　太祐 ★武田　達哉			★中村　太祐 ★武田　達哉

※紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に、選定療養費として7,700円をご負担いただきます。
ただし、紹介状がある場合は選定療養費（7,700円）の負担はありません。「かかりつけ医」等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。

理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する

外来担当医一覧の最新版は
こちらからご覧ください

長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.423